

## 第Ⅳ章

# 目指すべき姿を 実現する道筋 (施策展開の方向性)

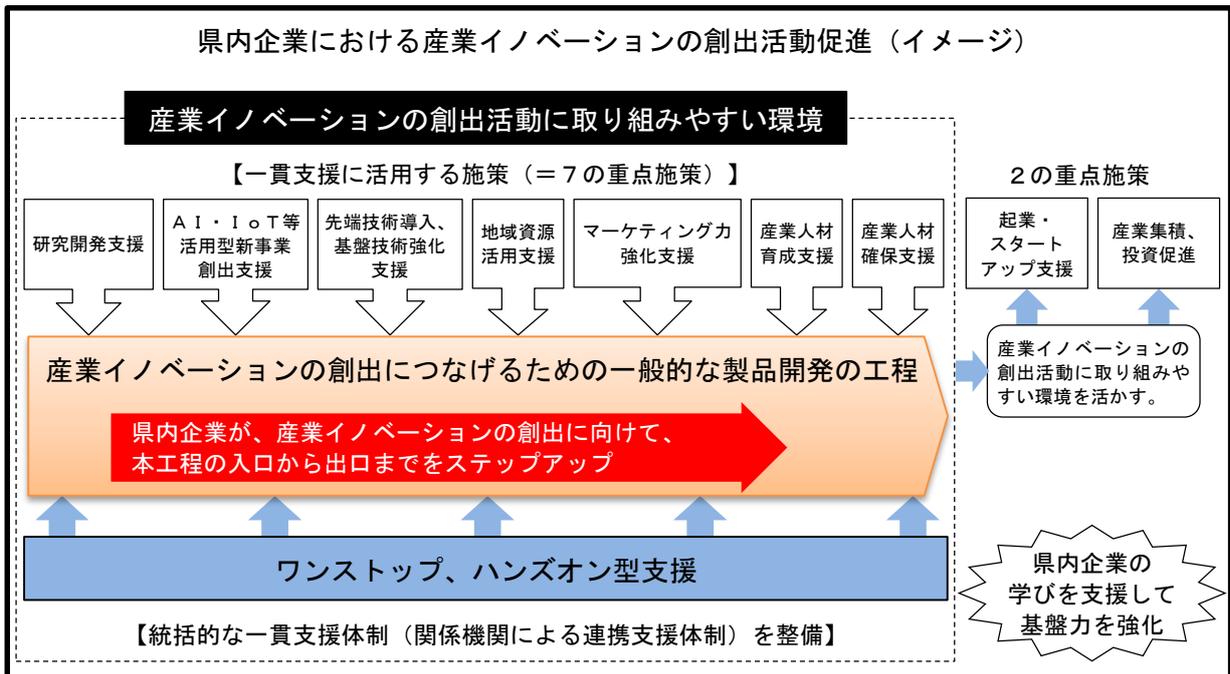
## 第IV章 目指すべき姿を実現する道筋（施策展開の方向性）

### 1 県内企業における産業イノベーションの創出活動促進

本プランでは、総括的な目指すべき姿である「産業イノベーションの創出に向けて、積極果敢にチャレンジするものづくり産業の集積」のもとに、具体的な目指すべき姿として「産業イノベーションの創出に向けた活動に取り組む企業の増加」及び「県内各地域における、国際競争力を有する高付加価値型の次世代産業の集積形成」の2つを掲げている。

本章では、2つの具体的な目指すべき姿を実現するための2つの道筋（施策展開の方向性）として、「県内企業における産業イノベーションの創出活動促進」及び「次世代産業クラスターの形成」を提示する。

### 1 県内企業における産業イノベーションの創出活動促進



「産業イノベーションの創出に向けた活動に取り組む企業の増加」の実現に向けて、以下の方向性に基づき施策を展開することにより、県内企業における産業イノベーションの創出活動を促進する。

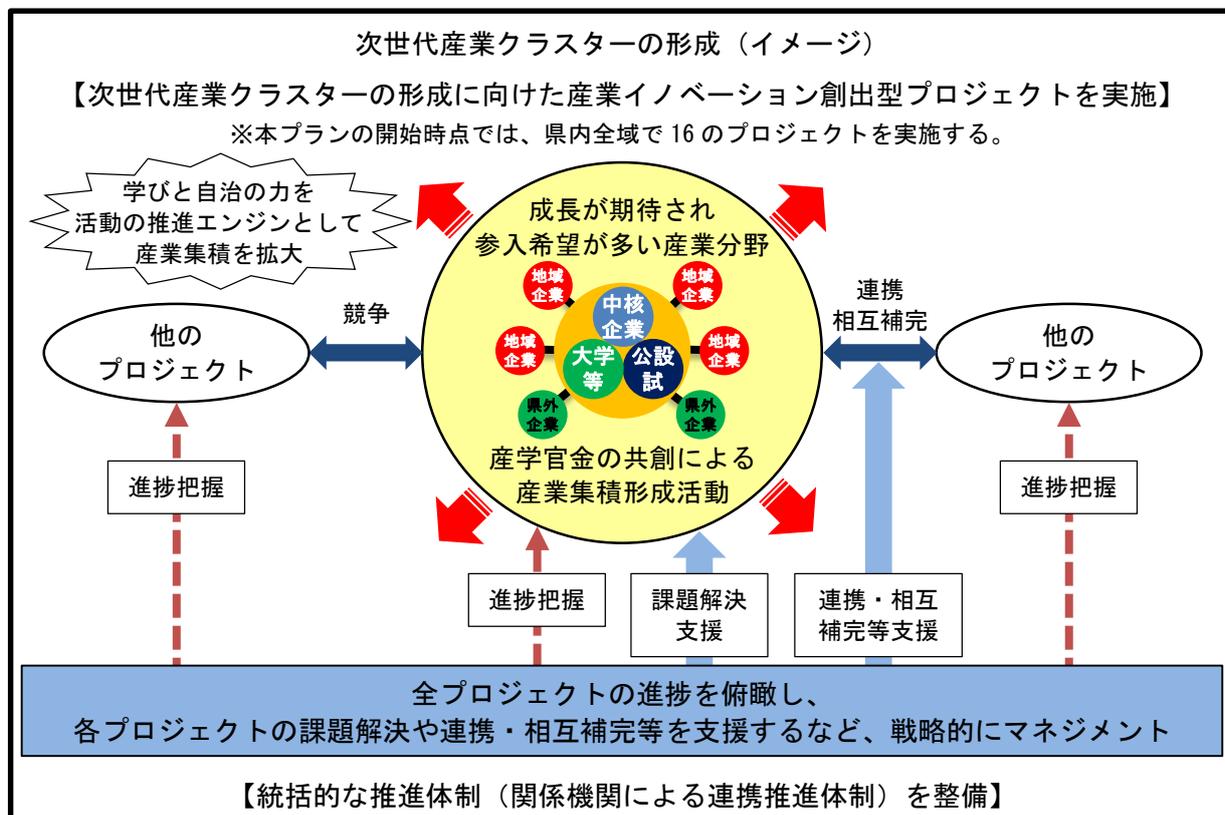
- ①「産業イノベーションの創出につなげるための一般的な製品開発の工程」に基づき、県内企業がその工程の入口から出口までを円滑にステップアップしていけるようにするための施策（=7の重点施策）を実施するとともに、それらの施策を効果的に活用して、ワンストップ、ハンズオン型の一貫支援ができる統括的な支援体制を整備する。
- ②①で整備した環境を活かし、産業イノベーションの創出活動に意欲的な企業の創業支援や誘致にも取り組む（=2の重点施策）。

県内企業における産業イノベーションの創出活動促進のための9の重点施策の詳細については、第V章において示す。

## 第IV章 目指すべき姿を実現する道筋（施策展開の方向性）

### 2 次世代産業クラスターの形成

※クラスターとは、本来ぶどうの房を意味するが、転じて群や集団を意味する言葉として用いられている。  
「次世代産業クラスター」とは、県内各地域の産学官金の共創による産業集積形成活動が、相互の連携や競争等を通じて発展することにより、県内各地域に国際競争力を有する高付加価値型の産業集積が形成された状態をいう。



「県内各地域における、国際競争力を有する高付加価値型の次世代産業の集積形成」の実現に向けて、以下の方向性に基づき施策を展開することにより、県内における次世代産業クラスターの形成を図る。

- ①「健康・医療」、「環境・エネルギー」、「次世代交通」など、今後成長が期待され、県内企業の参入希望が多い産業分野をターゲットとして、競争優位性を持つ県内産業の核<sup>※</sup>を基にした、産業集積形成活動が促進されるよう、産学官金の共創による16の産業イノベーション創出型プロジェクトを県内全域で実施する。

※「ターゲットとする産業分野に既に参入しており、その産業分野において、一定程度の優位性や競争力などを有するとともに、地域経済のけん引役を担う企業（＝中核企業）そのものの存在」や「超精密加工技術など、地域企業が待つ特徴的な技術」、さらには「大学等が持つ研究シーズ」なども含む。

- ②プロジェクトを効果的に推進するため、関係機関が一体となって、各プロジェクトの課題解決や連携・相互補完等を支援するなど、戦略的にマネジメントを行う統括的な推進体制を整備する。

県内全域において、産業集積形成活動を促進するために実施する産業イノベーション創出型プロジェクトの詳細については、第VI章において示す。

# 第IV章 目指すべき姿を実現する道筋（施策展開の方向性）

## 3 信州型産業イノベーション・エコシステムの形成

本章で提示した、具体的な目指すべき姿を実現するための2つの道筋（施策展開の方向性）である「県内企業における産業イノベーションの創出活動促進」と「次世代産業クラスターの形成」については、密接な関係性を持たせながら取組を進めていく。

2つの道筋は「本プランの総括的な目指すべき姿の実現に向けて走る車の両輪」である。すなわち、「県内企業における産業イノベーションの創出活動促進」により、産業イノベーションの創出につながり得る「芽」を創出する。そして、「次世代産業クラスターの形成」では、その「芽」を新たな核として、産学官金の共創による「産業イノベーション創成型プロジェクト」により、県内に国際競争力を有する高付加価値型の産業集積を育成し、県全体としての産業競争力の強化につなげていく。

従って、本プランの開始時点では、16の産業イノベーション創成型プロジェクトを実施することとしているが、計画期間中に、プロジェクトの数を増加することを目指していく。

また、2つの道筋に沿った施策展開をそれぞれ関連づけて、効果的に推進していくためには、本プランに基づく取組全般を俯瞰し、双方を統括的にマネジメントしていくことが必要になる。そのため、そのような機能を持った推進体制を整備することも検討する。

これらにより、県内において、絶え間なく産業イノベーションが創出される生態系システムのような環境・状態、いわゆる「信州型産業イノベーション・エコシステム※」の形成を目指していく（図表IV-3-1）。

〔※企業、大学、産業支援機関、行政機関、金融機関などの様々なプレーヤーが相互に関与し、絶え間なく産業イノベーションが創出される生態系システムのような環境や状態。〕

図表IV-3-1 信州型産業イノベーション・エコシステムの形成（イメージ）

